

平成 2 2 年 度 事 業 計 画

(案)

我々は、日常から地域の防災士として個々の役割を果たしていくほか、そのネットワークにより個々の能力を効果的に発揮できるよう、平成 2 1 年 7 月 2 5 日に日本防災士会岩手県支部を設立しました。

昨年度は設立の年であり、そのネットワークの構築を中心に活動してまいりましたが、今年度は、会員の増強に努めつつ、以下の事業を実施し、本格的な取り組みを進めてまいります。

1 会員同士のネットワークの管理・補強に努めます。

(1) メーリングリストなどを活用した、情報・意見交換の場を提供します。

- ① 個人情報の適正な管理に配慮しつつ、電子メールを活用した安価な情報交換の場を提供します。

(2) 防災サバイバルキャンプなどを開催し、防災士としてのスキルアップに努めるとともに、会員相互の親睦を図ります。

- ① キャンプ会場周辺の地理や天気、連絡手段、健康管理、各種環境対策などの学習や図上訓練、ロープワーク講習、ハザードマップの読み方などを学習しつつ、併せてバーベキュー大会を開催するなど、会員相互のスキルの確認及び向上、併せて親睦を図れるようなイベントを企画します。
- ② ボウリング大会を通じた会員交流会を企画します。

2 会員の増強と日本防災士会等との連携に努めます。

(1) 日本防災士会や県内各地域の防災士会との連携を密にするとともに、日本防災士会会員への岩手県支部入会を勧めます。

- ① 日本防災士会への支部活動の情報提供や支部未加入会員の情報提供依頼など、岩手県支部会員の増強に努めます。
- ② 県内各地域の防災士会や会員の活動情報を収集し、会報等により周知します。
- ③ 一般への防災士制度の周知や賛助会員の募集に努めます。

(2) 防災士講習の開催に連携した救命講習の企画に努めます。

- ① 県内での防災士研修講座の開催時期に合わせた救命講習の企画に努めます。

3 防災士の知見、技術向上に役立つ行事企画に努めます。

(1) 防災・減災のための知見習得とその習熟を目的とした研修及び災害対応技能研修、日本防災士会との連携による各種の行事開催に努めます。

- ① 防災サバイバルキャンプのほか、「自然災害を学ぶ」、「災害対策を学ぶ」、「災害文化

を学ぶ」、「気象を学ぶ」、「防災に関する生活の知恵を学ぶ」、「防災新技術を学ぶ」、「救命講習の概要」、「防災と防犯」などをテーマとした学習会、見学会、講演会、シンポジウムなどの開催に努めます。

② 大学や高等学校などの教育機関との学習会等の共同開催に努めます。

(2) 防災士のスキルアップを図るほか、地域での防災士活動を支援するため、資料等の制作及び企画に努めます。

① 会員の自主的な調査研究等の発表機会の企画など、その支援に努めます。

② 防災リーダー養成講座などの防災士のスキルアップに関する事業への参加の支援に努めます。

③ 会員が各地域で行う防災講座等の活動支援のため、それらに活用できる資料の制作及び企画に努めます。

4 日本防災士会岩手県支部の活動の周知と活性化に努めます。

(1) 会報の発行に努めます。

① 支部や会員の活動内容などの周知のため、年3回程度の会報の発行に努めます。

(2) 地域防災力の強化に貢献するため、地域の防災訓練への参加や自主防災会の設立を支援するなど、自治体や自主防災会等との連携を推進します。また、他の支部との相互応援協定や防災関係機関との応援協定等の締結に努めます。

① 県や市町村、あるいは自主防災会などが主催する防災訓練に積極的に参加します。

② 自主防災会の設立を支援します。

③ 他の支部との災害時相互応援協定や、防災関係機関との災害時応援協定などの締結に努めます。

(3) 会員の災害ボランティア活動を支援するとともに、会員のスキルを活用した災害救援チームの結成を検討します。

① 会員が被災地活動を行う場合の活動状況の把握など、その支援に努めます。

② 会員のスキルを活用した災害救援チームの結成を検討します。

(4) 大規模災害が発生した場合の災害救援本部の設置、日本赤十字社や社会福祉協議会等の災害ボランティア活動との連携を検討します。

① 災害救援本部を設置した災害救助救援活動を行えるよう、災害救援マニュアル等の策定に努めます。

② 日本赤十字社や社会福祉協議会、その他の災害ボランティア団体等との連携を検討します。